

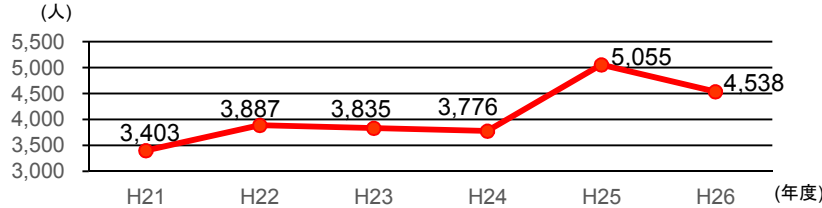
香川県高松市大島の概要と振興方策

国土交通省 国土政策局
離島振興課
平成27年6月

香川県高松市大島の概要

大島の概要

- 人口：115人(H22国調)
※78人(H27.4.1) 住民基本台帳より
 うち国立療養所大島青松園入所者：69名
 入所者以外は大島青松園の職員とその家族
- 人口減少率：60%(H12→H22国調)
 42%(H17→H22国調)
- 高齢化率：90%(H22国調)
- 面積：0.62km²
- 来島者数



【図1 来島者の推移】
※高松市調査結果
 ※大島青松園の職員、入所者への面会者数は除く
 ※平成22年度及び平成25年度は瀬戸内国際芸術祭の参加者を除く

位置図及び航路



表1 大島の航路状況

	距離	所要時間	便数/日	大島発		庵治・高松発	
				始発	最終	始発	最終
大島港－庵治港	4.8km	15～20分	3往復	7:30	17:25	8:00	17:45
大島港－高松港	8.2km	20～25分	4往復	8:30	16:15	9:10	16:45

※所要時間の差は船舶の違いによる

大島の地形・地質

- 島全域が瀬戸内海国立公園に指定
- 花崗岩からなる低い丘陵部と砂州からなる島
- 大島青松園などの施設は、島中央の砂州からなる低地に集中



【島の地形・地質】



【島の状況】

国立療養所大島青松園の概要

- 総面積：0.603km²
(島内面積は0.602km²で、島の97%を占める)
- 診察科目：内科、外科、整形外科、形成外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
- 入所者数：69人(平均年齢82.4歳)(H27.4.1)

表2 国立療養所大島青松園の変遷

年月日	事項等
明治42年 4月1日	香川県知事の管理する「第4区療養所」として発足
明治43年10月1日	「大島療養所」に改称
昭和16年 7月1日	厚生労働省に移管し「国立らい療養所大島青松園」に改称
昭和21年11月2日	「国立療養所大島青松園」に改称
平成 8年 4月1日	「らい予防法(昭和28年8月15日公布・施行)」が廃止









【治療棟】



【入所者居住棟】

大島振興方策の概要

- 人権学習などによる歴史の伝承、交流・定住の促進を柱とした振興方策
- 短期的には、歴史の伝承や交流促進を中心とした振興方策を実施しつつ、将来的に定住促進を目指す

	早期(実施中含む)	短期(3~5年程度を目標)		中長期
歴史の伝承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権学習の推進 (講演会や現地学習会)  <p>【人権学習の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青松園の空き施設を活用し、ハンセン病関連資料の見学 ・ 入所者との交流 などを目的とした学習宿泊施設(社会交流会館)の整備検討  <p>【青松園の空き施設】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史ガイドや語り部となる人材確保、養成 	
交流促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大島にある庵治第二小学校と高松市内小学校との学習交流  <p>【交流学習の様子】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大島関係者、団体のネットワーク構築(瀬戸内国際芸術祭における活動団体等とのつながりを維持) ・ 青松園の空き施設を活用し、芸術家の活動の場を提供(アーティスト・イン・レジデンスの検討) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大島港の整備検討  <p>【大島港】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般定期航路の開設など交通の確保
定住促進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災ヘリや救急艇による救急体制の確保  <p>【防災ヘリポート】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合併処理浄化槽の設置など移住状況に応じた生活環境の整備検討 	 <p>【大島港内の状況】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住希望者への移住の場の提供につながる方策の検討 ・ 芸術資産を活用した体験、滞在型の余暇活動に関連した産業の創出による雇用機会の確保方策の検討

※大島振興方策(平成26年11月香川県高松市策定)より主な振興策をまとめたものであり、実際の実施は関係機関との調整等による

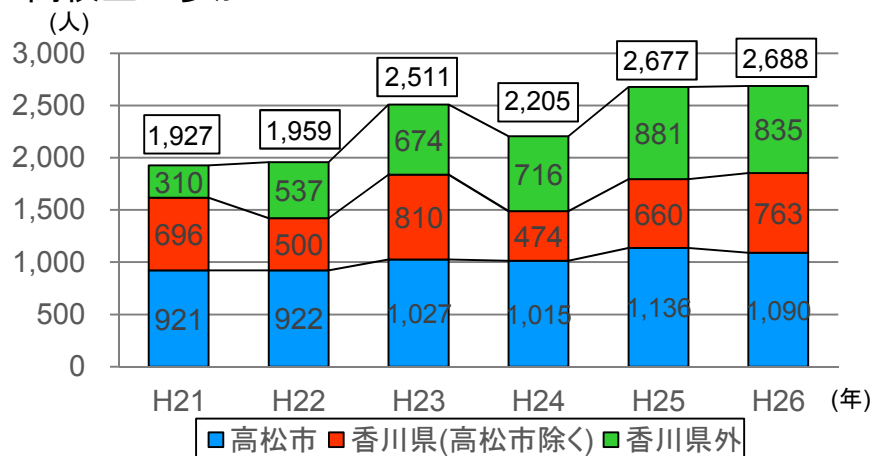
交流の促進による大島の振興

- 人権学習のほか、瀬戸内国際芸術祭を契機として島外との交流が徐々に活発化
- 一方、さらなる交流の促進に向けては、持続可能な交通手段の確保などが課題

※瀬戸内国際芸術祭:「海の復権」をテーマに瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の「希望の海」になることを目指し、2010年から3年に1度開催される芸術祭。「瀬戸内国際芸術祭2013」では香川県及び岡山県の12の島(直島、小豆島、大島等)が参加し、「春」「夏」「秋」の3会期に分けて計108日間開催され、来場者は約107万人に達した。

人権学習

- 平成8年のらい予防法廃止後、人権学習のため大島を訪れる児童・生徒等が増加
- 平成26年は、過去最多となる2,688人の小・中学生及び高校生が参加



【図2 人権学習等への参加者数】

※小学生、中学生、高校生及びその関係教員の合計値(高松市調べ)

瀬戸内国際芸術祭

- これまで平成22年と平成25年の2回開催し、大島へは全国より4,000人を上回る方が来島
平成22年:4,812人(日平均46人、最多日147人)
平成25年:4,544人(日平均42人、最多日160人)
- 大島では、大島の生活・記憶・文化をテーマとした展示を実施あわせて、ガイドツアー形式による島の歴史、作品説明を実施
- 大島来島者へのアンケートでは、約8割の方が大島を再訪したいと回答され、人権学習や自然環境に魅力を感じると回答
- 大島の在り方を考える会の会員と青松園入所者とのワークショップでも、島外との交流促進に役立ち、活気があって良かったとの意見が出た



【ガイドツアー】



【大島資料館】

さらなる交流促進に向けて

主な課題

- ・持続可能な交通手段の確保
- ・情報発信機能の充実
- ・人権学習などのための受け入れ施設の確保

大島のさらなる振興に向けて

➤ さらなる交流促進に向けた課題解決のため、持続可能な交通手段の確保や情報発信機能の充実、人権学習などのための受け入れ施設の確保等を検討

持続可能な交通手段の確保

- 一般定期航路開設に向け、今後、関係者との調整等を検討
- 大島港における水深確保のための整備を検討



【大島周辺の航路状況】

※航路状況は離島振興課調べ

情報発信機能の充実

- 自然環境等の大島の魅力や「あおぞら市※」などの交流イベント等について、パンフレットの作成・配布、PR活動などを実施

※あおぞら市：瀬戸内国際芸術祭を契機とした交流を継続するため、芸術祭実行委員が主催するイベントで大島では近隣離島等からの露店出店やコンサート、大島青松園入所者との交流を実施（平成25年参加者は170人）



【交流イベントの広報資料】

- これらの大島を紹介する広報活動や新たな交流イベントの企画などに離島活性化交付金の活用を検討

人権学習などのための受け入れ施設の確保

- 大島青松園の空き施設を活用し、
 - ・ハンセン病関連資料や映像見学による人権学習の場
 - ・入所者との交流の場
 - ・大島振興策推進組織の活動拠点の場
 - ・来島者の宿泊可能な場
- として整備(社会交流会館)を検討



【活用予定施設(外観)】



【活用予定施設(内観)】

※大島振興方策(平成26年11月香川県高松市策定)を基に作成したものであり、実際の実施は関係機関との調整等による

現地視察①

視察概要

日 程：平成27年2月24日(火)
 視察委員：阿比留部会長、山下委員、渡邊元委員

航路状況

- ・高松港から4便/日、庵治港から3便/日の定期船(官用船)が運航
- ・日中の乗客はまばらであったが、夕方の最終便は大島青松園職員の帰宅等により多くの乗客が乗船
※大島会館で行われた小学生の発表会に訪れていた大学生も乗船
- ・官用船は食料品や日用品の運搬にも利用
- ・大島港は水深が浅く、干潮時には着岸が困難であるなど水深の確保が課題



【大島の位置図】



【大島港の停泊状況】



【大島港内の状況】

生活環境状況

- ・島内道路はアスファルト舗装されており、日用品等を運搬するための車輛の通行が可能
- ・飲料水のための浄水場や緊急用のヘリポートが整備されているほか、郵便局等の施設も設置
※緊急時には高松港に係留されている高松市の救急艇を活用した搬送も行われている
- ・入所者居住施設は平成24年度に完成した1棟を含め、合計で3棟
※居住施設内は治療等のため廊下で一体化されているが、外観は各部屋ごとに表札が設置されるなどの配慮がなされている
- ・島内には飲食店※が無く、来島者は島外からの飲食物の持参が必要
※島内には日用品等を販売する売店が1店舗ある。また、入所者には島内調理場で調理された食事が提供される



【園内の道路状況】



【浄水場】



【郵便局】



【入所者居住施設】

島外との交流状況

○芸術を通じた交流

- ・瀬戸内国際芸術祭時に空き施設を活用して造られたカフェがあり、入所者と来島者の交流の場となっている(月2回程度)
- ・交流・定住のきっかけとしてアーティスト・イン・レジデンス※1を検討しているが、情報通信網の整備が課題※2

※1 アーティスト・イン・レジデンスとは芸術家にアトリエや創作活動の場を提供し、その活動を支援

※2 現在の情報通信網はADSLであり、瀬戸内国際芸術祭時には一時的な無線中継施設で対応



【交流の場となるカフェ】

○イベント等による島外との交流

- ・大島会館では各種交流イベントも実施
- ・当日は庵治第二小学校の生徒による発表会が行われており、入所者の他、島外からの大学生も参加



【大島会館】

○人権学習を通じた島外との交流

- ・小学生等の人権学習を実施
- ・ハンセン病関連資料等の見学による人権学習の場、入所者との交流の場、来島者の宿泊可能な場等として、大島青松園の空き施設の活用を検討(社会交流会館)



【納骨堂】



【モニュメント「風の舞」】



【社会交流会館予定施設】



【社会交流会館予定施設の内観】

その他

- ・調査時の入所者数は71人、大島青松園の職員は223人で、このうち医療関係者は160人
- ・看護師は2交替制をとっており、24時間体制